

家族で確かめよう！ 「もしも」のときの行動

3月11日午後2時46分ごろ、

太平洋三陸沖で発生した**東北地方太平洋沖地震**は、マグニチュード9.0、最大震度7という観測史上世界で4番目の巨大地震でした。地震に伴い発生した大津波は、多くの人命と財産、そしていくつもの街を一瞬にして破壊し、想像を絶する被害をもたらしました。

この地方にも津波警報が発表され、市では、自主防災会や消防団と連携して警戒にあたりました。同日午後5時32分には、田原市でも最大で1m60cmの津波を観測（赤羽根漁港）しました。幸い負傷者などはありませんでしたが、赤羽根漁港で漁船が転覆する被害がありました。

私たちは、被災された方々へできる限りの支援をしていくと同時に、この地域の防災についてより一層考えていく必要があります。発生が心配される東海・東南海地震が連動した場合は、太平洋岸で大きな津波の発生が予測されています。

「もしも」のときに備え、**まずは、地震発生時や津波が心配されるとき**の行動や避難方法について、**地域やご家庭で話し合っていたかどうか**をお願いします。

防災に関するお問い合わせ・ご意見は

▼防災対策課 ☎23局3548

✉saigai@city.tahara.aichi.jp

津波に対する心構え

津波警報などが発令されたときの行動を、普段から確認しておきましょう。

1 情報の伝達

津波警報・注意報は、テレビやラジオのほか、防災行政無線などで伝達されます。また、市内の海岸には、赤色回転灯付の防災行政無線を設置しています。

2 警報・注意報が発令されたときの行動

- ・海岸にいる人は、いち早く近くの高台に避難する
- ・注意報でも、海岸や河川には近づかない
- ・津波は繰り返し来るので、警報・注意報が解除されるまでは海岸や河川に近づかない

3 生死を分ける自主避難

- ・海岸沿いの低地などにお住まいの方は、すぐに近くの高台へ自主的に避難する

4 避難指示・避難勧告

- ・市役所職員、消防職員、警察官、自主防災会、消防団などから避難の指示があったら必ず従う
- ・避難の際はなるべく徒歩で（車は渋滞の原因に）
- ・逃げ切れないときは頑丈な建物へ避難（できれば鉄筋コンクリート造の3階以上）

地震が起きたら

大きな地震では激しい揺れが1～2分続きます。次の項目を覚え、落ち着いて行動できるようにしましょう。

1 身の安全を確保

家具から離れ、揺れが収まるまで丈夫な机の下などに身を隠す

2 すばやく火の始末

揺れがおさまったら、ガス栓を閉める。火災が起こってもあわてず初期消火を。火が大きい場合は逃げる

3 ガラスの破片に注意

割れたガラスや食器でケガをしないよう、靴やスリッパを用意する

4 出口の確保

ドアが開かないこともあるため、出口を確保しておく

5 あわてて飛び出さない

窓ガラスや瓦が落下することもある。外に出るときは注意を

6 隣近所と声をかけ合って

家族の安全が確認できたら、隣近所の安否確認を

7 正しい情報を

デマやうわさに惑わされず、ラジオなどから正しい情報を

